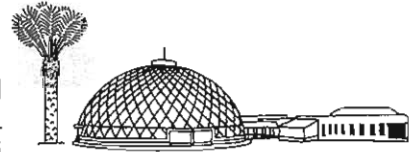


かんちけん倶楽部

TOTTORI KANCHIKENCLUB



世界の乾燥地農業、砂漠化防止に貢献する鳥取大学乾燥地研究センターの活動を支援している「とっとり乾地研倶楽部」の会報です。

● 会員の皆さまへ (とっとり乾地研倶楽部会長 米山幸太郎)



新緑の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

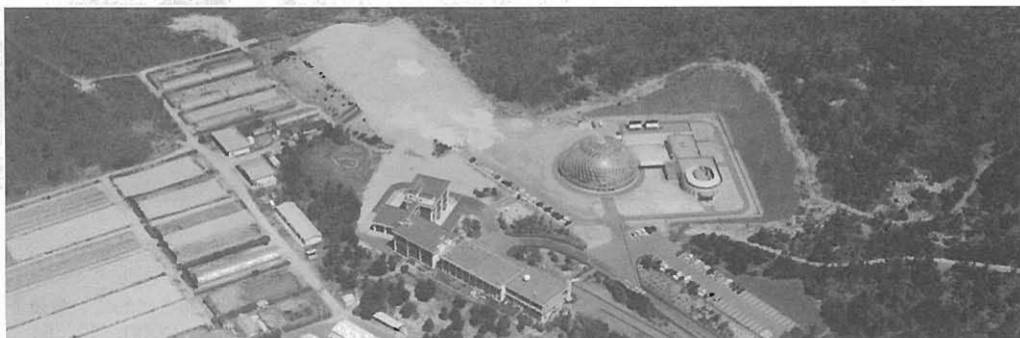
近年、地球の温暖化や砂漠化を始め地球環境問題が深刻さを増す中で、かけがえのない地球を汚さずに、また破壊することなく、次世代にバトンタッチすることが、私たちに課せられた大きな義務です。このまま行けば、水不足や地球の砂漠化の進展による農地の衰退、食糧不足などが危惧されております。

鳥取大学乾燥地研究センターは、鳥取砂丘で長年培われた砂丘地農業の研究をベースに、今では世界の乾燥地研究ネットワークの中核として、砂漠化の防止や食糧不足を克服する乾燥地農業に貢献されており、まさに只今の地球環境時代になくてはならない存在と言えます。また、乾燥地研究の分野で世界最先端の研究が行われていると同時に、全国の大学の研究者が利用できる国の中核的な研究機関として整備されており、鳥取県にとりましても、日本を代表する知的財産であり、世界に誇るべき施設であると考えています。

そこで、私どもは、乾燥地研究センターの活動を地域で支え、その活動内容と研究成果を世界に広く情報発信することを通して、地域の発展や振興を図ろうと「とっとり乾地研倶楽部」を設立いたしました。

当倶楽部では、乾燥地研究センターの応援団として、その研究についての普及を図り地球環境問題への啓発を行うとともに、会員の皆様に乾燥地研究センターを身近に感じていただくための情報提供や交流推進などの取り組みを行ってまいりたいと考えております。

つきましては、多くの方には是非当倶楽部にご加入いただき、乾燥地研究センターと地域の発展と振興を進める輪に加わっていただきますようご案内申し上げます。



・ センター長に聞きました ・

(鳥取大学乾燥地研究センター稲永忍センター長へのインタビュー)



Q 砂丘や地域とのつながりはどうお考えですか？

A 砂丘や地域の皆さんとのつながりは大変重要です。まず砂丘ですが、これは世界の乾燥地にも広く分布しており、乾地研にとって欠かせない大切な研究対象の一つだからです。次に地域の皆さんとのつながりですが、乾地研は皆さんの税金で運営されており、研究成果を広く皆さんに報告する義務を負っているからです。

Q とっとり乾地研倶楽部ができましたが何を望みますか？

A 乾地研は、休日一般公開を始め様々な公開活動を行っています。来研者数は年間5千名以上にもなります。しかしまだ、乾地研は何をしているの？という質問をよく受けます。私達の広報活動には限界がありますので、乾地研倶楽部には、乾地研と地域の皆さんとを結ぶ広報役になっていただきたいと思います。また、乾地研の外国人客員教授や留学生、全国から集まっている日本人学生などと地域の皆さんとの交流の橋渡しをお願いしたいと思います。さらに留学生に対する生活支援、海外研究を必要とする留学生・日本人学生の海外渡航などに対する経済的支援をお願いできればと思っています。

Q 乾燥地研究センターはどんどん充実していますね。

A 乾地研は文部科学省のCOE（卓越した研究拠点）プログラムの対象機関に選定され、アリドドーム実験施設や国際共同実験棟の建設、技術職員の増員、外国人客員教授の増員、若手博士研究員の配置など年ごとに充実が進んでいます。今後さらに充実を図り、世界のトップレベルの人材が集う研究機関に発展できればと思っています。

Q 海外との研究交流も盛んですが、これからはどうなりますか？

A 現在、推進中の中国、モンゴル、ブラジル、イスラエル、スーダンなどとの研究交流は今後一層活発になると思います。特に、中国とは「中国内陸部の砂漠化防止」プロジェクト研究を今後10年間、またイスラエルとは「乾燥地域の農業生態系に及ぼす地球温暖化の影響」プロジェクトを今後6年間実施する予定となっています。



平成12年度国際シンポジウム ～21世紀の食糧不足を克服するための乾燥地農業の役割～

乾燥地農業に関する先進国から研究者を招へいし、乾燥地農業研究に従事する国内研究者とともに、今後予想される食糧危機を回避するための乾燥地農業の役割について研究討議が行われました。(2000, 12, 5)

乾地研のひと

外国人客員教授のみなさんにお聞きしました。

- Q 1 出身地はどんなところですか？
- Q 2 乾地研でどんな研究をされているんですか？
- Q 3 鳥取県、鳥取砂丘についてどう思われますか？
- Q 4 鳥取の人はどうですか？
- Q 5 お国に帰られたら何をされますか

ラッシャ・ベルピラさん（オーストラリア・ケアンズ出身）



- A 1 オーストラリアのケアンズは12万人の街です。
- A 2 乾燥・半乾燥気候における塩水を使った灌漑維持。
- A 3 鳥取県は平和で清潔感があり、静かな県です。
砂丘は世界で一番美しい。
- A 4 率直に言って、一般の人々と交流する機会がとても少ないのです。
しかし職場の人々はとても親しくしてくれ、素晴らしい人ばかりです。
- A 5 クイーンズランド州政府に戻り、私の研究を続けます。

アリ・モハメッド・エルファティさん（スーダン・エルオベイド出身）



- A 1 エルオベイドは北コルドファン州の州都で、スーダンでは4番目に大きな街です。
- A 2 耐干性下のソルガムの生理学的方面の研究を計画しています。
- A 3 鳥取県は素晴らしく、とても清潔感のある地域です。注目すべき鳥取砂丘は、たいへん素晴らしいです。
- A 4 とても素晴らしく、必要な時はいつでも助けてくれ、協力的です。
- A 5 エルオベイド研究所で再び研究を行います。

温 光さん（カナダ・サスカトゥーン出身）



- A 1 カナダのサスカチュワン州にあるサスカトゥーン市は、広大な農地の広がる街です。
- A 2 農作物における抑制を解除された肥料を使い、最も効果的にする方法に専念しています。
- A 3 鳥取県では様々な農業活動があります。鳥取砂丘はとても美しく、私は好きです。
- A 4 ここの人々はとても素晴らしい。外国人に対し親しくしてくれ、とても助けとなってくれます。
日本の友人達と社会活動に参加することを楽しんでます。
- A 5 作物生産と土壌の豊かさの関係についての研究活動を続けます。

本倶楽部の活動に自治体の支援決定

とっとり乾地研倶楽部の活動の意義をご理解いただき、当倶楽部の情報発信事業に対し、平成13年度予算で鳥取県で50万円、鳥取市で30万円、福部村で20万円の補助金が計上されました。

第1回一般公開日が決定

今年第1回の一般公開日が8月11日（土）に決定されました。詳細が決まりましたら改めて御案内します。今年はどうな催しがありますか。楽しみにお待ちください。

（11月の鳥取大学大学祭期間中に、第2回目の一般公開日が予定されています。）

～平成12年度共同研究発表会ポスターセッション風景～



（鳥取大学乾燥地研究センター
Tel. (0857) 23-3411 Fax. (0857) 29-6199
<http://160.15.45.11/index.html>）

資料

○とっとり乾地研倶楽部の設立趣旨

砂漠化防止や乾燥地農業について世界的に貢献されている鳥取大学乾燥地研究センターは、世界の乾燥地研究ネットワークの中核として学術研究、人材育成に大きな役割を果たしておられ、地域にとっても世界に誇るべき知的財産です。

そこで、鳥取大学乾燥地研究センターの活動を地域で支え、その研究活動と研究成果を広く情報発信することを通じてこの地域の発展を図るために「とっとり乾地研倶楽部」を設立しました。

○事業計画

- 1 乾燥地研究センターの研究活動・研究成果の情報発信
 - ・乾燥地研究センター及びアリドドームの広報資料の作成・配付
 - ・乾燥地研究センターの一般公開等に対する支援
 - ・乾燥地研究に関するセミナー・ワークショップの情報提供
- 2 乾燥地研究センターにおける海外研究機関等との研究交流の促進
 - ・乾燥地研究センターの大学院生の海外派遣の支援
 - ・海外研究機関の研究者等との情報交換会の開催

○会員状況

- 1 法人会員 49団体
- 2 個人会員 273名（平成13年5月22日現在）

発行：とっとり乾地研倶楽部事務局

鳥取市東町1丁目220番地 鳥取県企画部企画振興課 / TEL (0857)26-7071 FAX (0857)26-7127
鳥取市本町3丁目102番 鳥取商工会議所 / TEL (0857)26-6666 FAX (0857)22-6939